次期総合計画策定の考え方と、この間の取り組み

資料1

総論［非議決］

○ 計画の趣旨
→ 策定方針等を踏まえて起案。

○ 笠置町について
→ 基礎統計、歴史、魅力などを軸に起案。

○ 時代潮流
→ 資料4等を活用して起案。

○ 主要課題
→ 持続可能な地域づくりについて、俯瞰的な視点から起案。
・ 役場・議会・まち会社等のあり方の見直しに踏み込んだ、基礎自治体としての機能の維持
・ 関係人口も含めた、協働の地域経営への転換　等

基本構想［議決］

○ 位置づけと計画期間
→ 町民憲章のもとでの、町政の最上位計画
→ 令和３年度から令和12年度までの10年間の基本構想、３ 年間で計画し事務事業を毎年ローリングで見直す基本計画（基本計画と実施計画を一体化）で構成

○ 将来像（求める状態像）
・ まちやひとの姿（アンケート等から）
・ 人口ビジョン（時点更新ベース）
・ 都市構造（要検討）

施策体系の
柱立てとの整合

○ 地域自治の方針（ベクトル整理）
・ 住民総参加型の地域自治への転換。
・ まちづくりは、SDGs の考え方を踏まえ、住民満足度の向上を本旨とするもの。
・ タウンプライド（シビックプライド）を保ち高める視点。
・ 協働と行政経営の視点（行革）

基本計画［非議決］

○ 当面３年間にみんなで取り組む30 の達成目標
→ 町政の課題と政策判断を踏まえ、優先順位を考慮し調整。

○ 施策体系／分野別の施策
→ 事務事業棚卸し、予算を踏まえたシンプルな体系・内容で起案。
→ 目標・指標を設定し、軽負担で適切に進行管理できるものとする。

○ 計画の推進
→ 住民総参加型の地域自治への転換に向けた道程など。

総合戦略との整合
（抜き出し・PJCT 仕立て）

各段階資料、総論、基本構想・基本計画案の調整

基本計画案の調整

○ 統計等諸指標の整理
→ 人口動向など基礎統計を整理。

○ 基礎資料として集約。

○ 現計画の総括

● 住民意向の把握
① 各区からの要望の整理
② 各区懇談会
③ 住民アンケート調査

○ 住民アンケートで共有する将来像の抽出
○ 現況・課題の把握（政策～生活実感レベルまで）、計画案への反映
・ 計画の推進を通じた、協働の地域経営の展望を拓く機運の醸成

○ 職員研修・職員参加
→ ファシリテーション研修。
→ 住民懇談会等への積極的な参画と、住民と一緒に考えるまちづくりをリード。

● 有識者インタビュー調査　等
○ 学識者、京都府など

○ 基礎自治体としての機能の維持と住民参画について　等

○ 事務事業の棚卸し
→ ヒアリングを踏まえる。
→ 事務事業、計画等の整理。

○ 基本計画の起案
→ 基礎資料を踏まえ、事務的・技術的な起案。

【考え方】
① 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、「集会」の実施を避ける。
→ 将来像は住民アンケート等をもとに描く。
② 身の丈＆実情に即した計画にする。
→ ５年間の基本計画、３年間の実施計画を、３ 年間の基本計画として１本化。
→ 優先度を考慮した、30 の達成目標を設定し、着実な進捗管理。
③ 住民による地域自治のあり方検討は、計画策定中から計画推進中に後ろ倒しする。
→ 地域自治の方針を構想に示し、計画の推進を通じて、継続的に「住民総参加型」の自治のあり方を追求。